

平成22年度 名古屋大学地震防災訓練（全学一斉防災訓練：10月14日（木））行動マニュアル

*黒字：昨年同様，赤字：本年度新たに実行する訓練，緑字：緊急地震速報の導入に伴い実行する訓練

*将来的には大学全体でブロック対応型の訓練に移行するが，今年度はエトピア周辺のみブロック対応を実施（下記表中の部局をブロックに読み替える）

所要時間	事項	災害対策統括本部	部局災害対策本部	学生・教職員等在学者
タイムスケジュール (目安)		想定①：地震により、全学で停電が発生。電話、FAX、メール、プリンタ等の使用不可 想定②：「IB電子情報館」「理学部A棟」「農学部東西研究棟」「全学共通教育棟」は原則として建物外一時退避		
10月14日 10:32	震度6弱の地震発生を確認	<ul style="list-style-type: none"> 「10時30分に大地震が発生」（緊急地震速報が合図。） 	<緊急地震速報が聞こえたら> ドアを開放（避難路の確保）、身の安全を確保	<緊急地震速報が聞こえたら> ドアを開放（避難路の確保）、身の安全を確保
10:32	※地震により停電 「災害対策統括本部」設置指示 要員招集 地震発生時の連絡本部の設置 以上は2分以内で行う（10:34までに）	総長から「災害対策統括本部設置」の指示 「災害対策統括本部要員」を招集する。 本部要員は、大きな揺れを感じたら指示を待たずに本部第2会議室に集合。 (通知例文) ・ただいまの地震により名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。 ・直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、応援要員は、第1会議室に集合してください ・学務部の避難誘導担当者は、豊田講堂(主に教養教育院学生対象)の参加者を誘導してください。	「部局災害対策本部要員」および「防災隊」が集合できるよう準備をする。 ラジオのスイッチを入れ情報収集 名古屋市内が震度6弱以上との情報を得る。 ① 防災隊は腕章を着用する ② 窓を開けて防災無線を聞く準備をする。なお、自分の部局の被災状況を目視により可能な範囲で確認する。 例：煙、音、匂い、人の状況（倒れている、走っているなど）	(研究室内に居る場合) ラジオ等から情報を収集する
10:34	部局対応	【防災無線による一斉放送】 (アナウンス) ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。 ・ただいまの地震により名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。 ・各部局は、「部局災害対策本部」及び「部局防災隊」を設置し、「地震防災ガイド」及び「マニュアル」に従って行動してください。	【防災無線による一斉放送】を聴く 【部局災害対策本部】及び「部局防災隊」設置指示 「部局防災隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ (通知例文) ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・こちらは、〇〇研究科災害対策本部です。 ・ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。 ・直ちに「部局災害対策本部」要員及び「防災隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び防災隊の指示に従って行動してください。 ・(想定②に該当の場合) 建物外へ一時退避してください。 (その他、部局の状況に応じて変更してください)	【防災無線による一斉放送】を聴く 【教員】 教室、実験室などで講義中の教員は防災無線を聴き、建物内待機もしくは建物外退避の意思決定を行う。(震度6弱以上の場合は原則として建物外一時退避) 【学生】 担当教員もしくは職員の指示に従い行動する。 【学生・教員】 研究室の学生は担当教員もしくは上長者の指示に従い行動する。
10:39	1) 部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了	1) 【想定②に該当しない部局】から部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了の報告を受ける	1) 【想定②に該当しない部局】 部局災害対策本部及び部局防災隊要員集合 部局災害対策本部及び部局防災隊設置 —第一次報告— 【防災無線設備】もしくは【伝令】による報告 (規程のフォーマットによる) ただし、無線等の通信手段を使えない場合は、 第2次報告 のときにまとめて報告しても良い。)	【教員】 教室、実験室などで講義中の教員は防災無線を聴き、建物内待機もしくは建物外退避の意思決定を行う。(震度6弱以上の場合は原則として建物外一時退避)
10:45	2) 退避完了および部局災害対策本部・部局防災隊設置完了の報告	2) 【想定②に該当する部局】から退避完了報告、部局災害対策本部および部局防災隊設置完了の全報告を確認	2) 【想定②に該当する部局】 指定建物の居住者の建物外退避支援（避難誘導等） ・ 避難誘導班：居住者を建物外へ誘導する。メガホン、館内放送などで建物外一時退避を呼びかける ・ 搬出班：重要書類等を持ち出す ・ 警備班：被災直後は建物や部屋の被災確認を行う。(建物内居住者全員が建物外へ退避したら) 建物の警備を行う。 ・ 総務班：建物内居住者への連絡や関連機関への連絡を行う ・ 救護班：応急手当等を行う ・ 工作班：電気・ガス源の切断など必要に応じたライフラインの停止等を行う —退避完了報告— 【防災無線設備】もしくは【伝令】による報告 (規程のフォーマットによる) ただし、無線等の通信手段を使えない場合は、 第2次報告 のときにまとめて報告しても良い。)	【学生】 退避後は教職員の指示に従う (退避者は全員11:10までに豊田講堂へ移動し防災講演会に参加する) 【学生・教員】 建物外へ退避するとき、貴重品等の管理は各自が責任を持って持ち出す。(実際に災害が発生したら何も持たずに逃げるが、訓練では盗難等に十分に注意すること)

所要時間	事 項	災 害 対 策 統 括 本 部	部 局 災 害 対 策 本 部	学 生 ・ 教 職 員 等 在 学 者
10:45			怪我人を想定し(〇〇部、〇〇部のみ各1名)、怪我人を担架等により保健管理室に搬送する。	
11:10	豊田講堂へ移動		上記の1),2)ともに 救護班、工作班メンバーは11:10までに豊田講堂へ移動し、東邦ガス(株)および保健管理室による防災講習会を受講する。	建物外一時退避者は豊田講堂へ移動完了しておく。 なお、退避者以外でも受講可能
11:15	被害状況報告	部局からの「被害状況」報告書を受け取る (本部1号館が倒壊などにより危険な場合は、より安全な場所に転移し、移転先を 本部1号館の玄関 に掲示する)	—第2次報告— 【防災無線設備】もしくは【伝令】による報告(規程のフォーマットによる) 「部局防災隊総務班」から「災害対策統括本部」へ部局内被害状況を報告	
11:45	全報告完了	【アマチュア無線クラブ】からの報告 「訓練交信を滞りなく終了したので報告します。」	【アマチュア無線クラブ】による報告 (遠隔キャンパスなど、あらかじめ準備した一部の部局のみ)	(全員) 10月21日までに 携帯電話又はPCから 「名古屋大学ポータル の携帯 用サイト」 (https://mynu.jp/k/) へ安否情報を入力する。
12:00	訓練終了	「全学防災訓練終了」の放送 ・「ただいまを持ちまして本日の全学防災訓練を終了いたします。ひきつづき多くの部局で、部局防災訓練を行いますので参加してください。」		(部局防災担当者) 10月21日～28日の間に 構成員の安否情報が入力され た名古屋大学ポータル のサーバ ーから、各部局の安否情報 の取り出しを行う。
11:15	防災教育・研修(講習会)	研修場所：(東山地区)豊田講堂 ①講演(東邦ガス株式会社、保健管理室、災害対策室)、②総長による訓示 各部局の避難・帰宅対象者は、避難・帰宅場所を豊田講堂とし、防災教育・研修(講演)を受講する。		防災隊の工作班、救護班のメンバーは、11:10分までに豊田講堂へ移動し受講する。
12:00	訓練終了	(鶴舞地区)豊田講堂の講演会をTV伝送：伝送場所 中央診療棟3階講堂 (大幸地区) " :伝送場所 多目的会議室		
18:00	防災講演会(任意参加)	名古屋大学防災アカデミー 講師：矢守克也氏(京都大学防災研究所 教授)、会場：環境総合館1F レクチャーホール		
19:30	防災講演会終了			

本 部：総合防災訓練：
出火場所：本部2号館2階給湯室
避難場所：職員テニスコート前

消火栓取扱訓練 (訓練場所：本部2号館1階)

消火器取扱訓練 (訓練場所：**第3グリーンベルト**)

(※雨天の場合：消火栓・消火器取扱訓練は中止する。)

訓練終了

部 局：各部局の訓練計画による

訓練終了

- *注 (1) 災害対策統括本部電話番号
東山キャンパス内部局・・・・・・・・・2093
鶴舞キャンパス・・・・・・・・・85-2093
大幸キャンパス・・・・・・・・・85-2093
- (2) 災害対策統括本部FAX番号
東山キャンパス内部局・・・・・・・・・5865
鶴舞キャンパス・・・・・・・・・85-5865
大幸キャンパス・・・・・・・・・85-5865